

王者の覚悟

日本柔道を牽引してきた名だたる柔道家を輩出してきた名門、東海大学・男子柔道部。現在129名という多くの部員を束ね、伝統を受け継いだ主将が太田彪雅さんだ。6月に行われる全日本学生柔道優勝大会においては、今までも7連覇の実績を持ち、太田さんが入学してからも3連覇中。4年生となり主将となった今年の大会は、太田さんにとって1年生から4年生までの学年全てで優勝、そして大学としても4連覇がかかっている。「6月の大会と10月にある全日本学生体重別団体柔道優勝大会の2冠も目指しており、主将としての責任をひしひしと感じながらも、意気込みも気合も今までと違うものがあります」。そう語る太田さんは、兄の影響もあり小学2年生から地元元の道場で柔道を始めた。「ずっと柔道を続けてきたことで、人とのつながりも広がり、勝つ喜びや礼儀作法など、人間として成長できていることが大きいです。部の方針としても、柔道だけでなく、まず学業をしっかりすること。そしてミーティングでの監督からのお話も柔道のことに限らず、社会に出てから役立つお話が多いので、とてもためになっています」。柔道を通して人間教育を実践している伝統がうかがえる。こうした点にも強さの秘訣があるといえる。「大会では、打倒・東海大学という気持ちで臨んでくる相手チームからのプレッシャーも強いですが、先輩方の築かれた伝統を守り、自分の代で負けるわけにはいかないという気持ちで向かっています」。伝統校の主将という大役。そして個人としても子どものころからの夢であるオリンピックの金メダルという目標。様々なプレッシャーを背負いながらも、これを取り切ること、人として一皮むけるはずだと感じている太田さん。「自分としても今が踏ん張りどころだと感じています。個人の目標も、団体戦としての目標も、日々の積み重ねと強い気持ちで乗り越えたいですね」。彼らが、「王者の覚悟」ともいえる目標を達成した時、日本柔道の新たな進化を、世界に見せることができるだろう。

(写真・文／西山俊哉)



太田彪雅さん
(体育学部武道学科4年)